

スモールミーティング用資料

株式会社群馬銀行と株式会社第四北越フィナンシャルグループの

経営統合に関する最終合意について

2026年4月3日

専務取締役 内堀 剛夫



INDEX

本資料の内容

イントロダクション（ブランドストーリー）

1. 統合持株会社の概要
2. 新金融グループの理念
3. 経営統合の目的
4. 経営統合の概要
5. 新金融グループのガバナンス・組織体制
6. 新金融グループの計数計画
7. シナジー

【参考資料】

- 業界内での立ち位置
- 両社の概要
- 基本合意（2025年4月24日）以降の取組み状況

ブランドストーリー

ふたつの翼で、 新しい風を未来に。

時代が大きく動くいま、
地域の未来に、新たな力を届けたい。

群馬の大地をかたどるツルと、新潟の空に舞うトキが、
大空で出会い、新たな旅路へと向かうように、
私たち群馬銀行と第四北越FGは、ともに未来を描きます。

それぞれが長年にわたり、培ってきた信頼と実績をもとに、
県の垣根をこえ、地域と未来をつなぎ、
金融の枠を超えた価値を提供していく、そのために。

二羽の翼が重なることで、
地域の未来に、新たな風をお届けしたい。
そんな物語と約束を、群馬と新潟、
そして、両地域とつながる、すべてのみなさまに。



1. 統合持株会社の概要

商号

株式会社 群馬新潟フィナンシャルグループ

英文 Gunma Niigata Financial Group, Inc.

略称 GNFG

代表者
(予定)

代表取締役会長

殖栗 道郎 (現 第四北越フィナンシャルグループ 代表取締役社長)

代表取締役社長 (グループCEO)

深井 彰彦 (現 群馬銀行 代表取締役頭取)

本店所在地

東京都千代田区丸の内1丁目8番2号 (鉄鋼ビルディング)

コーポレート
マーク



GNFG

群馬の大地をかたどるツルと、新潟の空に舞うトキが、
大空で出会い、新たな旅路へと向かう姿をロゴデザインに。

県の垣根をこえ、地域と未来をつなぎ、
金融の枠を超えた価値を提供していく姿勢を表現しました。

2. 新金融グループの理念

MISSION

存在意義

ふたつの翼で、地域の未来を創る

VISION

ありたい姿

**信頼を礎に、金融の枠を超え、価値をつなぐ、
リージョナルソリューショングループへ**

VALUES

わたしたちの価値観

(1) 四方共益

お客さま・地域、会社、仲間、株主、すべての豊かさの向上を目指して行動します

(2) 誠実

プロフェッショナルとして誠実に取り組み、揺るぎなき信頼を積み重ねていきます

(3) 挑戦

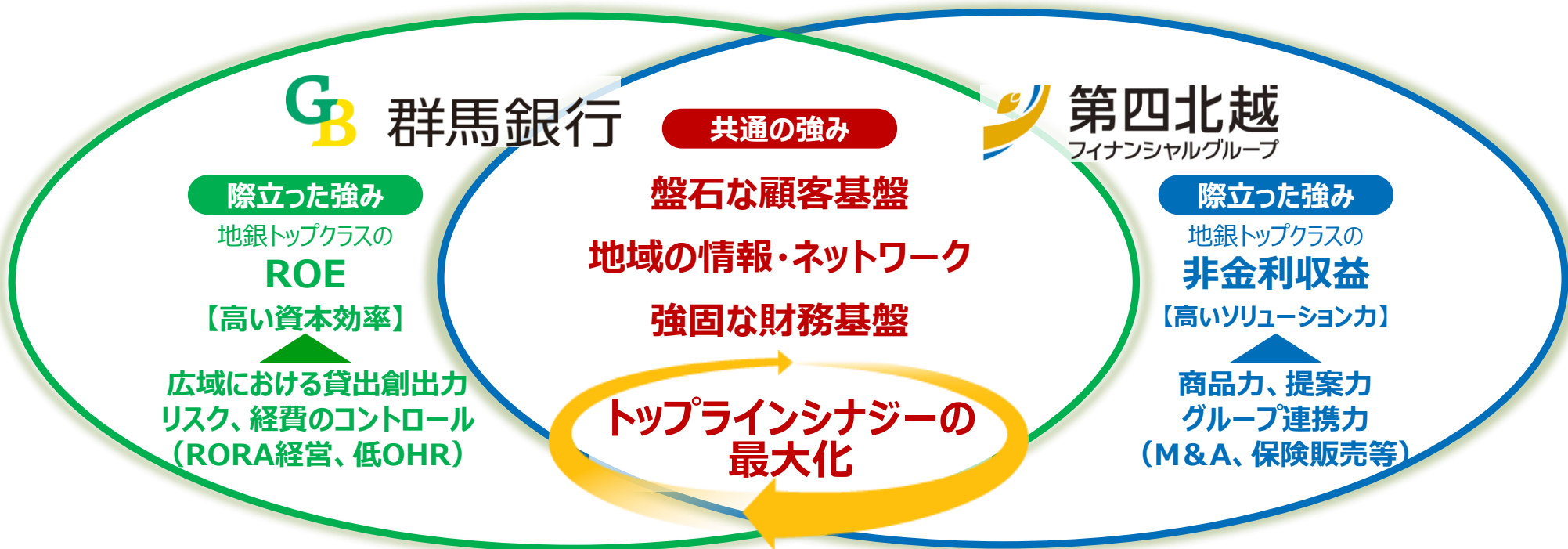
失敗を恐れずに挑戦し続け、地域の未来へ新たな風を起こします

(4) 共創

地域を超えてヒト・モノ・コトをつなぎ、ソリューションの力で新たな価値を生み出します

* 両社の従業員から集まった3,400件を超えるアンケート（新金融グループが「目指すべきこと」や「大切にすべき価値観」）の結果をもとに両社で議論を尽くし、決定に至りました。

3. 経営統合の目的



両社共通の強みをベースに、それぞれの際立った強みを補完することで、
トップラインシナジーの発揮、および経営管理の高度化を図り
経営の規模・質ともに地方銀行トップクラスの金融グループへステップアップ

結果として、お客さま・地域、職員・ビジネスパートナー、株主といった
すべてのステークホルダーの豊かさの向上を目指してまいります

4. 経営統合の概要

経営統合前



(※) 群馬銀行の普通株式1株に対して、第四北越フィナンシャルグループの普通株式1.125株を割当て交付します。

【株式交換の日程】

26年 3月26日	両社取締役会決議 株式交換契約書及び 経営統合契約書の締結
26年 9月30日 (予定)	両社の臨時株主総会に係る 基準日
26年12月23日 (予定)	両社臨時株主総会開催
27年 3月29日 (予定)	群馬銀行株式の最終売買日
27年 3月30日 (予定)	群馬銀行の上場廃止日
27年 4月 1日 (予定)	株式交換の効力発生日

経営統合後



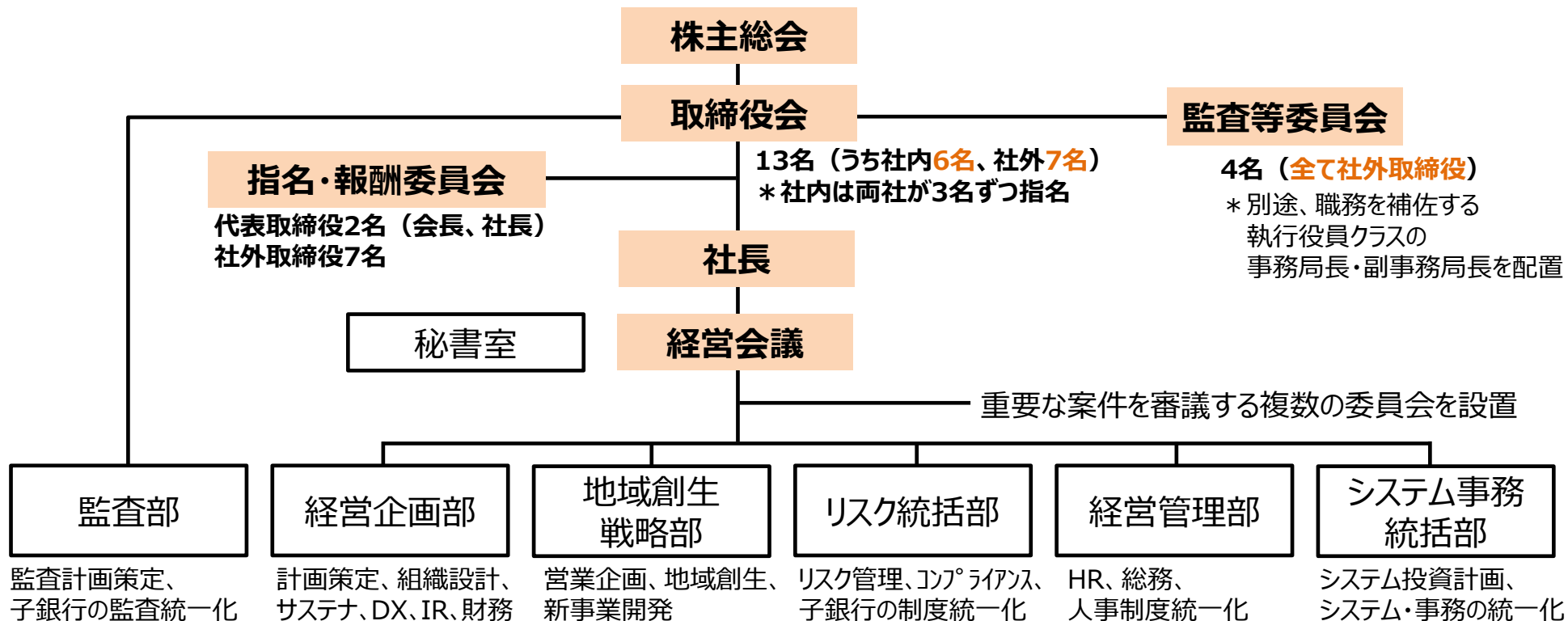
- 群馬銀行と第四北越銀行の合併は予定しておりません。
- 両行ともに統合持株会社の子会社として現状の営業を継続してまいります。また、経営統合を契機とした店舗の統廃合は予定しておりません。
- 両行の商号やコーポレートマーク、本店所在地等に変更はありません。
- 経営統合後はグループストラクチャーの最適化を図り経営の高度化を目指してまいります。

5. 新金融グループのガバナンス・組織体制

- 相互信頼・対等統合を基本的な方針とし、ガバナンスおよび組織体制の最適化を図り、企業価値の向上に取り組んでまいります。

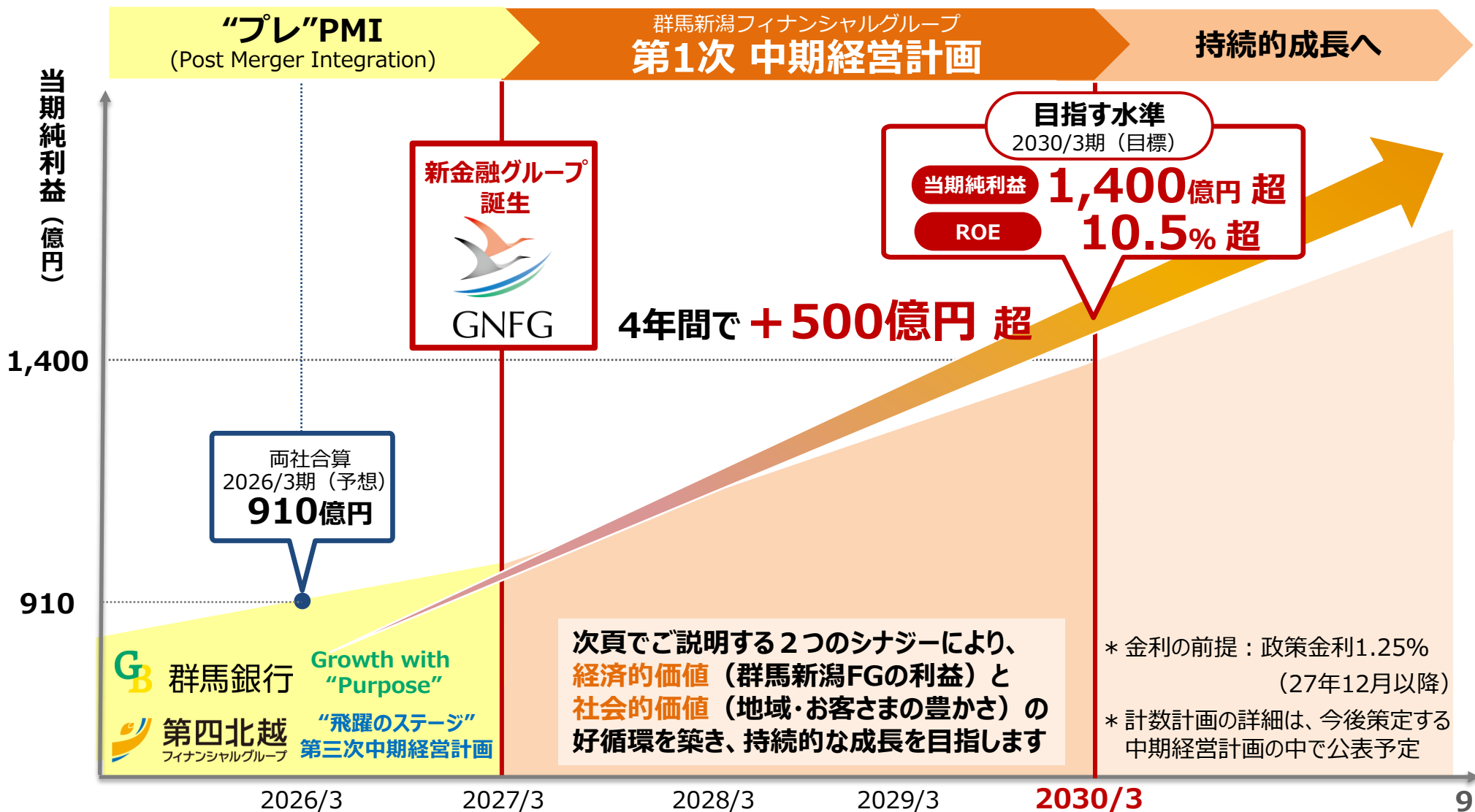
統合持株会社の体制図

統合持株会社の業務をメインで行う人材を**100名規模で配置**し、グループの経営方針や計画策定、リスク管理等の経営管理を高度化することでグループ全体を主導



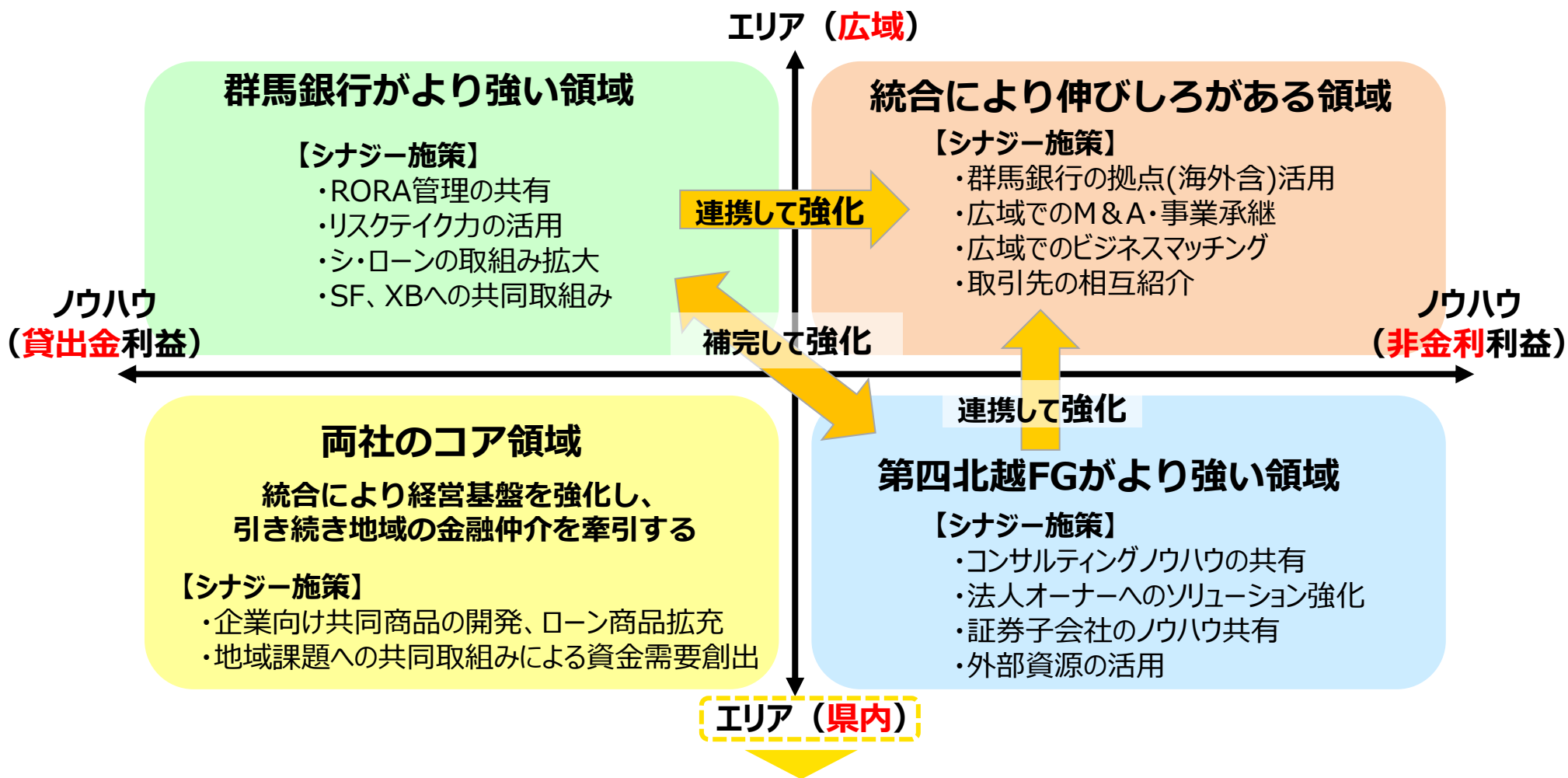
6. 新金融グループの計数計画

- 本経営統合の狙いの一つである「トップラインシナジーの最大化」を図り、2030年3月期（統合3年後）の当期純利益1,400億円超、ROE10.5%超を目指します。



7. シナジー（Ⅰ） 規模×ノウハウ

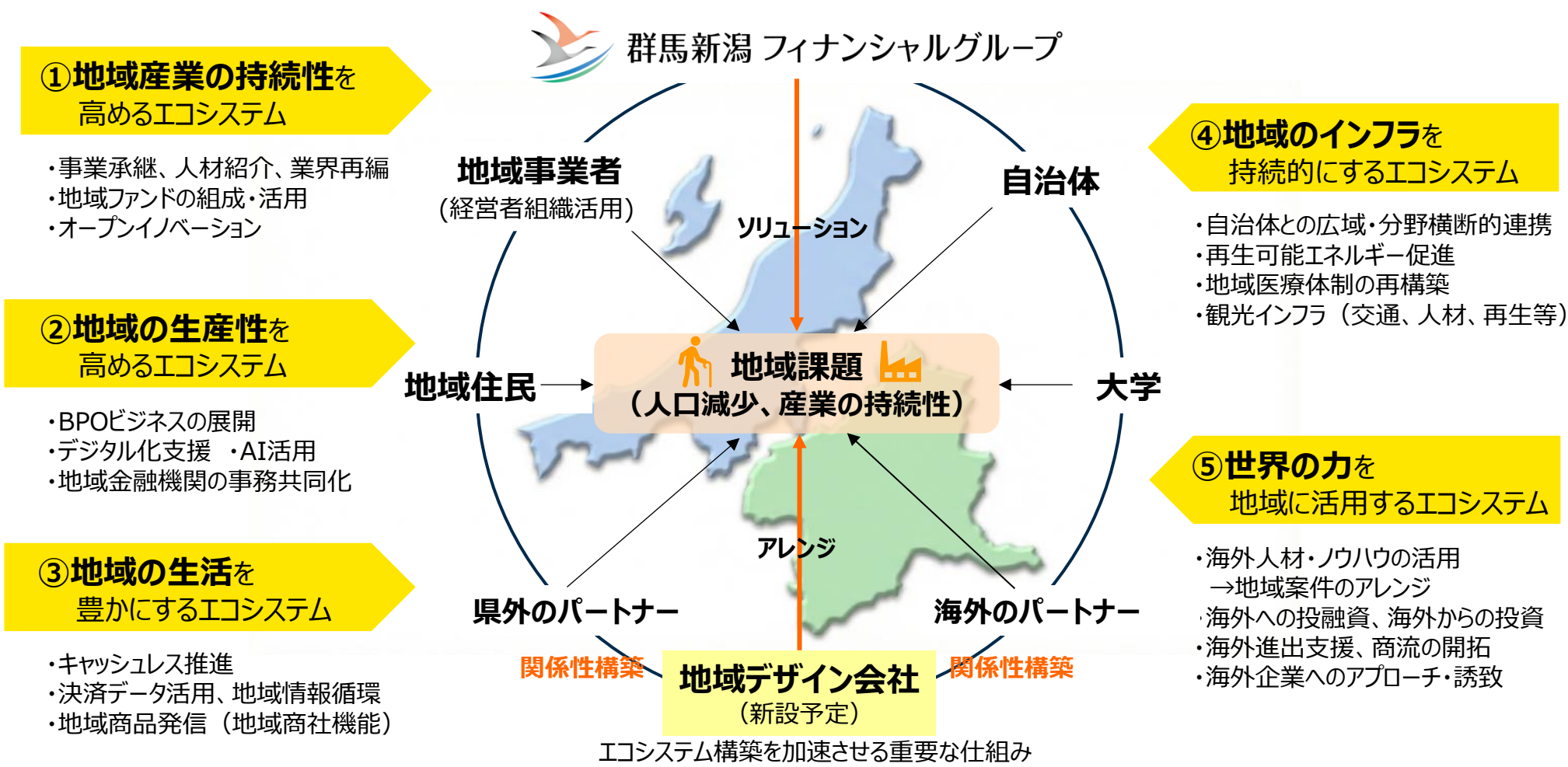
- 経営統合による**規模拡大**（営業エリア、総資産、リスクテイク力、人的資本等）と、お互いの強み（**ノウハウ**）を融合し、**資金利益・非金利業務利益の拡大**（**トップラインシナジー**の発揮）を図ってまいります。



次頁の**シナジー（Ⅱ）**に取り組むことで、「**エリア（県内）**」の持続的成長を目指します

7. シナジー（Ⅱ） 地域×挑戦

● **地域エコシステム**の構築へ・・・新金融グループがハブとなり、外部パートナーと連携して地域の好循環を築きます



目指す姿：上流から外部パートナーと連携して地域課題にアプローチ。地域の持続性を高めるとともに、ニーズ・収益機会を創出。

【参考資料】業界内での立ち位置

上場地銀73行で比較。経営統合により各項目で**トップ5**圏内の規模となる。


総資産 (25年12月末基準)		預金 (25年12月末基準)		貸出金 (25年12月末基準)		連結純利益 (3Q累計) (25年12月期)		ROE (25年12月期)		時価総額 (26年2月末時点)	
4位		4位		5位		2位		6位		4位	
(単位：兆円)		(単位：兆円)		(単位：兆円)		(単位：億円)				(単位：億円)	
1 ふくおか	34.0	1 ふくおか	21.4	1 ふくおか	20.0	1 横浜	850	1 四国	12.2%	1 横浜	19,344
2 横浜	25.2	2 横浜	20.3	2 横浜	17.6	2 群馬+第四北越	786	2 スルガ	10.5%	2 千葉	18,744
3 めぶき	21.9	3 めぶき	17.6	3 千葉	14.0	2 ふくおか	703	3 いよぎん	10.2%	3 しずおか	18,239
4 群馬+第四北越	21.5	4 群馬+第四北越	17.0	4 めぶき	13.6	3 しずおか	696	4 群馬	10.2%	4 群馬+第四北越	14,581
4 千葉	20.7	4 千葉	16.3	5 群馬+第四北越	12.6	4 千葉	688	5 東京きらぼし	9.5%	4 ふくおか	13,080
5 ほくほく	17.3	5 ほくほく	14.4	5 しずおか	11.0	5 めぶき	646	6 群馬+第四北越	9.5%	5 めぶき	12,719
6 しずおか	15.8	6 しずおか	12.1	6 ほくほく	10.8	6 いよぎん	645	6 ふくおか	9.4%	6 京都	11,684
7 九州	13.8	7 北洋	10.7	7 西日本	9.9	7 八十二	477	7 第四北越	8.8%	7 いよぎん	10,637
8 八十二	13.5	8 九州	10.4	8 九州	9.2	8 群馬	447	8 ほくほく	8.7%	8 八十二長野	10,268
9 西日本	13.5	9 西日本	10.4	9 山口	8.9	9 ほくほく	447	9 七十七	8.5%	9 群馬	8,955
10 北洋	13.3	10 山口	10.2	10 北洋	8.3	10 七十七	399	10 めぶき	8.5%	10 ほくほく	7,639
11 山口	13.0	11 八十二	9.5	11 ひろぎん	8.2	11 京都	391	11 紀陽	8.4%	11 七十七	7,541
12 ひろぎん	12.7	12 京都	9.5	12 京都	7.5	12 第四北越	339	12 横浜	8.4%	12 西日本	6,520
13 京都	12.2	13 ひろぎん	9.3	13 群馬	7.0	13 西日本	336	13 ひろぎん	8.2%	13 山口	6,461
14 ちゅうぎん	11.4	14 七十七	8.6	14 ちゅうぎん	6.7	14 ひろぎん	329	14 富山第一	8.1%	14 九州	6,200
15 第四北越	10.7	15 群馬	8.6	15 八十二	6.6	15 ちゅうぎん	315	15 佐賀	7.9%	15 ちゅうぎん	5,935
16 群馬	10.7	16 ちゅうぎん	8.5	16 七十七	6.6	16 九州	309	16 西日本	7.8%	16 ひろぎん	5,913
17 七十七	10.4	17 第四北越	8.4	17 いよぎん	6.1	17 山口	288	17 名古屋	7.7%	17 第四北越	5,626
18 いよぎん	9.3	18 いよぎん	6.6	18 第四北越	5.8	18 東京きらぼし	276	18 筑波	7.7%	18 滋賀	4,799
19 山陰合同	8.5	19 東京きらぼし	6.4	19 山陰合同	5.3	19 スルガ	238	19 しずおか	7.7%	19 百五	4,320
20 滋賀	7.6	20 山陰合同	6.3	20 東京きらぼし	5.1	20 北洋	204	20 千葉	7.6%	20 スルガ	4,185


※単位未満は四捨五入。連結ベースの計数。

【参考資料】両社の概要

地方銀行トップクラスの金融グループへ

 群馬銀行	
本店所在地	群馬県前橋市
設立（銀行）	1932年9月
総資産（連結）	10兆7,732億円
預金等残高	8兆7,883億円
貸出金残高	7兆1,585億円
預かり資産残高（連結）	1兆4,513億円
当期純利益（連結）	550億円
時価総額	8,561億円
従業員数（連結）	2,979人
拠点数（銀行）	国内106拠点 海外4拠点
グループ会社	金融分野 銀行、証券、リース、カード、信用保証、ファンド運営
	非金融分野 コンサルティング・地域商社、システム、輸送・保守

 第四北越 フィナンシャルグループ	
本店所在地	新潟県新潟市
創立（銀行）	1873年11月
総資産（連結）	10兆7,829億円
預金等残高	8兆5,898億円
貸出金残高	5兆8,792億円
預かり資産残高（連結）	1兆8,268億円
当期純利益（連結）	360億円
時価総額	5,355億円
従業員数（連結）	3,530人
拠点数（銀行）	国内135拠点 海外1拠点
グループ会社	金融分野 銀行、証券、リース、カード、信用保証、ファンド運営
	非金融分野 コンサルティング・調査、システム、人材紹介、地域商社

新金融グループ [○] （単純合算）  群馬新潟 フィナンシャルグループ		
総資産（連結）	21兆5,561億円	
預金等残高	17兆3,781億円	
貸出金残高	13兆377億円	
預かり資産残高（連結）	3兆2,781億円	
当期純利益（連結）	910億円	
時価総額	1兆3,916億円	
従業員数（連結）	6,509人	
拠点数（銀行）	国内241拠点 海外5拠点	
グループ会社（事業領域）	11事業	
 群馬銀行	預金等シェア	38%
	群馬県内シェア	貸出金シェア 34%
 第四北越銀行	預金等シェア	43%
	新潟県内シェア	貸出金シェア 50%

※総資産・預金等残高・貸出金残高・預かり資産残高：2025年12月末時点、当期純利益：2026年3月期業績予想、時価総額：2026年2月末時点、従業員数・拠点数・グループ会社：2025年9月末時点 県内シェア：（出所）金融ジャーナル「金融マップ 2026年版」（2025年3月末）

【参考資料】基本合意（2025年4月24日）以降の取組み状況

- 最終合意および統合シナジーの発揮に向け、両社の各階層にて協議を行ってまいりました。

統合準備委員会

両社トップを中心に、重要事項について協議。これまでに**8回**開催。

専門部会

10の部会（経営企画、営業、システム事務、リスク管理等）に分かれ、Fit&Gapや、業務統一化、シナジー発揮に向けた検討を実施。これまでに延べ**87回**実施。



- シナジーの早期発揮に向けた“プレ”PMIとして、2025年10月から2026年3月までの期間を「**プレアクション180**」と定め、両社役職員の「**意識統合**」や、業務の高度化に向けた「**業務統合**」の検討に取り組んでまいりました。

意識統合

合同研修や共同イベントの実施、統合に関する従業員アンケート（3,400人超が回答）を実施



階層別・業務分野別の合同研修実施
(支店長研修、女性マネジメント研修、海外研修等)



共同ニュースの
定期的配信



● 地域スポーツの共同観戦 ●
(1,200人超が参加)



「群馬・新潟マルシェ」の
共同開催

業務統合

リスク管理、収益管理、監査等の業務共通化の検討着手や、生成AI分野の共同研究を開始

- 最終合意後（2026年4月以降）は、統合直後から**トップラインシナジー**を発揮できるよう、営業分野を始めとした共同施策の検討を加速してまいります。

米国証券法について

第四北越フィナンシャルグループは、本経営統合が行われる場合、それに伴い、Form F-4による登録届出書をSECに提出することを予定しています。Form F-4を提出することになった場合、Form F-4には、目論見書（prospectus）およびその他の文書が含まれることになります。Form F-4が提出され、その効力が発生した場合、本経営統合を承認するための議決権行使が行われる予定である株主総会の開催日前に、Form F-4の一部として提出された目論見書が、群馬銀行の米国株主に対し発送される予定です。Form F-4を提出することになった場合、提出されるForm F-4および目論見書には、両社に関する情報、本経営統合およびその他の関連情報などの重要な情報が含まれます。かかる目論見書が配布される米国株主におかれましては、株主総会において本経営統合について議決権を行使される前に、本経営統合に関連してSECに提出予定のForm F-4、目論見書およびその他の文書を注意して読みになるようお願いいたします。本経営統合に関連してSECに提出される全ての書類は、提出後にSECのホームページ（www.sec.gov）にて無料で公開されます。なお、かかる資料につきましては、お申し込みに基づき、無料にて提供いたします。送付のお申し込みは、下記記載の連絡先にて承ります。

会社名： 株式会社第四北越フィナンシャルグループ
住所： 新潟県新潟市中央区東堀前通七番町1071番地 1
電話： 025-224-7111

将来見通しに関する注意事項

本書類には、上記の群馬銀行と第四北越フィナンシャルグループの間の経営統合およびその結果にかかる将来見通しに関する記述が含まれています。これらの将来に関する記述は、「見込みます」、「目指します」、「します」、「リスク」、「可能性」もしくはこれらと同様の表現、または戦略、目標、計画、意図などに関する説明という形で示されています。様々な要因に影響を受けて、両社の実際の業績は本書面に述べられている将来に関する記述と大きく異なってくる可能性があります。

両社は、本書類の日付後において、将来見通しに関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆さまにおかれましては、今後の日本国内における公表およびSECへの届出において両社（または統合後のグループ）の行う開示をご参照ください。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、以下が含まれますが、以下に限定されるものではありません。

- － 本経営統合に必要な株主総会の承認が得られないこと
- － 本経営統合に必要なとされる許認可が得られないこと、またはその他本経営統合の完了の条件が充足されないこと
- － 両社に適用される法制度、会計基準または経営環境の変化が及ぼす影響
- － 両社の事業戦略を実行する上での課題
- － 金融市場の不安定性を含む一般的経済状況または業界状況の変化が及ぼす影響
- － 本経営統合の遂行に関するその他のリスク

(お問い合わせ先)



総合企画部

TEL 027-252-1111



グループ戦略推進部

TEL 025-224-7111

- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。
- 本経営統合の形態等につきましては、今後両社で継続的な協議・検討の上、変更となる場合がございます。